審議会等議事概要

平成 23 年度　第 3 回　滝川市廃棄物減量等推進審議会

日時	平成 23 年 9 月 30 日（金曜日）午後 3 時～午後 5 時
開催場所	滝川市役所 3 階　301・302 会議室
出席者	中田会長、米田副会長、二宮委員、安居委員、芳賀委員、樫原委員、西田委員、長田委員、山田委員（白木委員欠席） 事務局：伊藤市民生活部長、庄野市民生活部参事、赤松くらし支援課長、 山川同課副主幹、伊藤同課主査、運上同課主査
議事	**・開会のあいさつ** **（会長）** 御案内の時刻となりましたので、ただいまより第 3 回滝川市廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。 皆様におかれましては、御多忙のなか、お集まりいただきまして、ありがとうございます。 本日の会議は、委員８名中７名の方の出席をいただいておりますので、滝川市廃棄物の資源化・再利用の促進及び適正処理に関する条例施行規則第 3 条 2 項により、委員の半数以上の出席をいただいていることから、当審議会を開催できますことをご報告させていただきます。 本日の会議より「ごみの減量化・資源化」という大きなテーマに入ります。みなさまの活発なご意見よろしくお願いいたします。 それでは、議事の進行にまいります。富良野市の視察のまとめということで再度確認ということで事務局から説明願います。

議　事	**（事務局）**「富良野市の視察についてのまとめ」説明 **（委員）**滝川市は、家の前にゴミを置いておけば収集する個別収集だが、富良野市の場合はステーション方式による収集であり、よほど町内会などが中心となって管理をしなければ、あれほど綺麗な状態に保てないのではないかと感じた。また、移動の車の中で見たのだが、ゴミ収集車の塗装やロゴマークなど入るなど収集らしくない車で印象的だった。 **（委員）**ゴミ処理について、富良野市は細かく分別収集している点では滝川市と違いがあるが、広域で処理している部分については同じであり、それほど違いはないと感じた。また、ごみ収集の場所を見て、町内会等の組織の協力を得ないと、より細かな分別ができないのではないかと思った。 **（事務局）**「滝川市の減量化・資源化について」説明 **（委員）**昨年７月より市で古紙類の回収が実施されているが、町内会等が行っている集団資源回収との兼ね合いで、集団資源回収として出されていた資源物を市のゴミ回収車が持っていくなどのトラブルは今まであったのか、お聞きしたい。 **（事務局）**ある町内会から集団資源回収をやっているが市でその町内会の古紙類を回収されては困るとの相談を受けた。その町内会の集団資源回収を行っている住民の方すべてが納得していただけるのであれば、そのエリアだけは収集しないことはできるとの回答をし、その町内会から住民の同意を得たことから、数か月間、市ではそのエリアだけ収集しないことにした。しかしながら、その後、その住民から苦情が入り、結果的にゴミの資源化の意味から回収させていただいている。データーからも集団資源回収から集められた量は市回収した量に対して圧倒的に多い。また、集団資源回収の行っている団体は増えているが、担い手の問題等で町内会の件数は減っているが、逆に学校等のクラブ活動の団体が増えてきている。

	（委員）集団資源回収について、町内会によっては月１回、３か月に１回などまちまちであるが、ほとんどの資源物については、集団資源回収で回収された量の方が多いこともわかったが、そうなると市としてもっと集団資源回収を勧めて、市としての資源物の回収を止める方向も考えるべきではないか。 **（事務局）**先に述べたように町内会の活動として集団資源回収を行っているが、どうしても町内会の諸事情により参加できない町内会もあることから収集しなければならない。町内会の取組ができるような体制をお願いしていかなければならないと考えている。 **（委員）**私の町内会も集団資源回収をしているが、町内会長をはじめ、その町内会の方も熱心である。各班に 20ℓ袋を渡して 2 ヶ月に 1 回に実施している。やっぱり、町内会の皆さんの協力が不可欠であり、リサイクルする気持ちが高い町内会である。 **（事務局）**町内会の中には、学生や単身者の多いアパートがあるなど町内会の世帯構成など関係してくるが、やはり、皆さんが町内会活動に参加できるような町内会になっていただければいいと思う。

	（委員）現在、ごみは各分別に収集されているが、それぞれ分別ごとの袋の販売枚数どれくらいなのか **（事務局）**手持ち資料がなく回答はできないが、枚数は把握している。二つ目の諮問内容である「ごみ処理手数料の適正な市民負担について」の部分で説明させていただく。 **（委員）**資料の中で燃やせるゴミにおいては、資源化されていないとのことだが、エコバレー歌志内では焼却して発電をしていると思うが **（事務局）**発電は行っている。そのことについて議論していただかなければと考えているが、可燃ごみを単なるごみと考えるのか、燃料と位置づけるのか。今日の議題にもある可燃ごみの組成調査の中でプラスチックごみや紙のごみの排出量が多かったが、これらのごみの扱いとしても単なるごみとして扱うのか、発電のための燃料として扱うのか、今後皆さんに議論していただきたい。 **（委員）**新しくできる焼却施設も発電を行うのか **（事務局）**発電・売電を行う施設である。生ごみにおいても、ガス化していることから発電のための燃料であることから、可燃ごみも燃料の一部として考えていかなければならないと思っている。

	（委員）平成 22 年度はごみ量が増えているが **（事務局）**人口は減少しているがごみ量は増えている。これは滝川市だけでなく近隣市町も同じ状況。資源化できるごみも相当あるのではないか、また、家庭系ごみと事業系のごみの部分での分析も必要と考える。これから議論する中で、これから滝川市のごみの量の問題を考える上で、家庭系のごみ以外に事業者から出るごみについても減量化・資源化をどのように働きかけていくのか考えていかなければならない。 「家庭系（燃やせるごみ）組成分析調査について」説明 **（委員）**この調査結果において、プラスチック製品、雑紙が多いことがわかった。普段気にせず、ごみを捨てている者としては、非常に参考になった。 **（委員）**なるべくごみを捨てる場合、細かくしてより多く袋に入るようにしているが、今の滝川市の分別を考えるとこのやり方も良いと思うが、もし分別項目が増え、資源化を考えると逆効果ではないかと感じた。 **（事務局）**この調査結果において、今後の滝川市の資源化・減量化を考える上でプラスチック製品、雑紙の扱いをどうするのか、回収ルート等を含め提案させていただき次回の審議会において議論していただきたい。
	配布資料等 (1) 富良野市の視察についてのまとめ (2) 滝川市の減量化・資源化について (3) 家庭系（燃やせるごみ）の組成調査の結果について